

研究発表もうしこみフォーム

氏名：湊 邦生

氏名のローマ字表記：Minato, Kunio

所属：高知大学地域協働学部

専門分野：社会学

発表のタイトル：モンゴルにおける地方移住促進の現状

発表要旨：

モンゴル国（以下「モンゴル」）では近年、首都ウランバートルから地方への移住を促す動きが始まっている。本発表ではこの動きに焦点を当て、地方移住促進の背景、現時点で行われている取り組み、それらの取り組みが抱える課題点について報告する。

地方移住促進の取り組みの背景となるのが、ウランバートルへの人口集中と、それに伴う都市問題の慢性化である。統計によれば、1990年代以降、ウランバートルに人口が一貫して流入している一方、地方ではほとんどの年・地帯で人口流出が続いている。これにより、ウランバートルでは周知の通り渋滞や大気汚染、人口スプロールといった問題が慢性化しており、その解決策として着目されたのが地方移住である。

地方移住促進の具体的な取り組みについては、2020年代に入ってインターネット上で発信・報道されている。国際移住機関(IOM)が地方移住に関する動画配信やSNS投稿等を行っているほか、移住者自身が地方での生活や移住に関する情報を発信・提供している。さらに、オヨーン＝エルデネ現首相が2021年に発表した政策パッケージ「新再生政策」にも地方移住の促進が含まれており、その一環で地方各県も移住者誘致と人口増に向けた取り組みに着手している。

ただし、これらの取り組みには、(1)地方移住後の生活条件（特に雇用・賃金水準格差）、(2)教育格差、(3)政策の継続性への懸念、(4)政府主導の上意下達的な政策実施という4点で課題がある。加えて、上述の背景から、この取り組みが真に地方のためのものになっているかも厳しく問われるべきである。

とはいえ、地方への移住の拡大が地方の抱える課題の解決につながり得ることも確かである。それだけに、これらの取り組みとその成否は今後も研究に値する。その際、現地での実態調査や、日本をはじめ他国における移住促進政策の共有・適用可能性の検討が求められよう。